

きずな

「学校教育に関するアンケートの結果と分析について」

昨年の12月に、児童と保護者対象に学校教育についてのアンケートを行いました。保護者の皆様にはお忙しい中、アンケートに答えていただきありがとうございます。

今年の学校経営の重点に「たくましい体」、「豊かな心」「確かな学力」、「地域・他校園と連携した学校づくり」、そして「チーム東小としての組織運営」の観点をあげていましたので、この5つの観点から、アンケートを行いました。高い評価をいただきましたが、いくつかの課題も見えてきました。それぞれの結果を分析し、平成29年度の山陽東小学校の教育に役立てていきたいと思えます。なお、%の数値につきましては、肯定的回答（「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」）の合計値です。

この通信の裏面には、保護者アンケートの集計結果を載せております。

1 「たくましい体」について

- (1) 体を動かすことが大好きな子どもを育てるとともに、体育の時間だけでなく、朝・業間休み・昼休み・放課後に、一人一人の体力向上を図る。

新体力テストの結果から、A・B 評定の児童の割合は、昨年度24%と低い値を示していましたが、今年度は30%となりました。また、D・E 評定の児童は、昨年度と比較すると減少しています。児童アンケートでも、「外遊び」の項目については、A・B 評価合わせて84%と、昨年度と比べ2ポイント上昇しています。これは、岡山県が実施しているチャレンジランキングへの参加・児童会の体育委員会が主催する「月1回遊び」等、外遊びの奨励が効果を上げてきていると考えられます。次年度も「一日1回外遊び」を合い言葉に、さらに外遊びを奨励して、日常的に体力の向上を図ります。また、様々な遊びを紹介するとともに、体力作りのための環境整備を積極的に行います。(運動場・体育館)

- (2) PTAと連携し「睡眠・栄養・運動」の自己管理能力を育てる。

安定した学校生活を送るためには「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣化は最重要課題です。アンケートの集計結果では、肯定的回答が、児童80%、保護者85%でした。今年度は、新たに、桜が丘地域の小・中学校が連携してメディアチェックを行ったり、夜9時以降にメディアに接しないようにする運動を進めたりしてきましたが、保護者アンケートの「スマホ・ゲーム等の家庭でのきまり」の項目では、77%と昨年度より5ポイント低い値でした。年々、児童の依存傾向が顕著であると考えられますので、桜が丘地域の保・幼・小・中が連携して、一斉にメディアのセルフコントロール週間の取組を継続して推進します。

2 「豊かな心」について

- (3) 自己肯定感を育成し、一人一人が大切にされ良さが認められる学級・学校づくりに努める。

学校は、児童の良さを認め伸ばそうとするという観点での評価は児童96%、保護者89%と高い評価でした。授業中だけでなく、朝の会や帰りの会で、一人一人の良さを引き出す場を教職

員が意識して設けた成果です。また、縦割り班遊び・交流週間等異学年交流を行い、児童同士の「絆づくり」を進めた成果でもあります。さらに、自分も友達も大切にしていると答えた児童は96%、保護者94%、学校が楽しいと答えた児童92%、保護者90%と高い評価です。これは、あらゆる教育活動を通して児童の「自己肯定感」を高める取組を行った結果、自分に自信をもって学校生活を送っているからであると考えられます。今後も、子ども同士が関わり合える場を意図的に設定し、児童・保護者から「通いたい」「通わせたい」と思える学校にしていきたいと考えています。

(4) 気持ちのよいあいさつや丁寧な言葉遣いができる子どもを育てる。

地域の方からは、「東小の子どもはあいさつがよくできる」とお褒めの言葉をいただくことが多くあります。しかし、評価は、児童90%、保護者74%です。学校では、「挨拶の飛び交う学校」ですが、家庭や地域で、できていないことが伺われます。あいさつや言葉遣いは人間関係を作っていく上での基本です。大人がまずはお手本を示すことを前提として、今後も、年間を通して指導していきます。

(5) 「廊下の歩き方・黙働」を徹底し、安全で落ち着いた環境づくりに努める。

「黙って最後まで掃除に取り組む」は児童が85%、「お手伝いや働くこと」は保護者評価は72%でした。保護者評価は昨年度と比較すると下がっています。教職員の評価でも、「廊下の歩き方」は56%と低く、特に廊下歩行に大きな課題があるとの反省が出ています。次年度は、安全面からも廊下歩行について指導を徹底します。

3 「確かな学力」について

(6) 岡山型学習のスタンダードを徹底し、分かる授業の工夫、個に応じた指導を行うことにより、一人一人の学力の底上げを図る。

児童・保護者アンケートの集計結果では、児童95%、保護者86%という評価を受けました。岡山型学習のスタンダードを徹底し、「基礎的な内容の習得」に焦点を当てて全教員が授業改善を図った成果です。また、図書を新規に購入するなど読書環境を整備したおかげで、全校児童一人当たりの平均貸出冊数が昨年度より20冊増えました。学力に関する諸調査の結果では、学年をおうごとに、数値上は、国や県との差が縮まっており、成果が出ていますが、学年によっては、県・国との差が10ポイント以上開いており、指導体制の見直しを図る必要があります。本校児童の学力に対する課題を捉え、全教職員で対策を練り、一人一人の児童の学力向上を数値目標を設定して取り組みます。

(7) 授業に生きる家庭学習の内容の充実と習慣化を図る。

家庭学習の習慣についての保護者評価は、74%と低い値を示しています。テレビをつけないで机について勉強するという項目の児童アンケートでも77%という低い評価です。県教育委員会が発行している「家庭学習のスタンダード」をもとに、学年×10分以上の学習時間を目標として掲げ、授業内容と家庭学習の連動を図るとともに、宿題の内容と量の工夫を学校全体で組織的に取り組みます。

(8) 「学習の約束」「授業の約束」「持ち物の約束」を徹底し、学習規律と学習習慣を身に付けさせる。

児童91%、保護者78%と児童・保護者ともに昨年度より高い評価です。今後も、「学習の約束」「授業の約束」「持ち物の約束」の3つを徹底します。さらに、本校は、様々な園からの新入学児が多く、入学してもなかなか本校の学習規律になじめないという課題もあります。保育園・幼稚園と連携した小1スタートカリキュラムを見直し、山陽東小学校の実態に即した形にし

ていく予定です。

(9) 特別に支援が必要な児童への適切な指導・支援を行う。

「先生に困ったことや悩みを相談できる」という項目で、児童アンケートでは76%の評価でした。年に3回実施する教育相談週間等を活用し、学習や対人関係のつまずき、本人の特性、家庭環境等、児童が抱える課題を把握し、個に応じた対応を継続します。

4 地域・他校園と連携した学校づくりについて

(10) 地域教育力を意図的に取り入れた教育活動の充実を図る。

保護者の方からは94%の高い評価となっています。これは他校に先駆けて導入した学校支援地域本部事業が定着した結果です。今後も、授業や教育環境整備に地域ボランティアの力を活用していきます。地域行事への参加率については、今回も75%にとどまっており、昨年より低下しています。核家族化、共働き世帯の増加などの影響もありますが、地域と共に子どもは育つのであり、今後は、地域行事と学校行事の連携を模索していく必要があると考えています。

(11) 開かれた学校づくりのための情報提供を推進する。

学校だよりを地区回覧し、学校の教育活動を地域に説明したり、「東小ホームページ」を活用して、よりタイムリーな情報を日々発信したりしたので、地域の方からは、学校の様子がよく分かると好評ですが、今後は、学校通信やホームページの充実だけでなく、学年通信の発行を増やすように教職員に働きかけていきます。

(12) 学区内の保育園・幼稚園・桜が丘地区の小中学校との相互理解に向けた取組を推進する。

この桜が丘地域は、一つの大きな街です。桜が丘地域の一体化の一翼を担うため、小学校同士、保育園や幼稚園との相互交流を推進しているところです。小学校間では、行事实施日の調整が進んでおり、学区内の2保育園・1幼稚園の園児と小学生との交流の機会を多くもち子ども同士の関わり合いが深まっています。

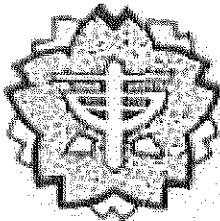
なお、5番目の観点「チーム東小としての組織運営について」は紙面の都合で省略いたします。

【お礼】

たくさんの方の項目についてお願いしたにもかかわらず、どの項目にも丁寧にお答えいただいたことに感謝いたします。アンケートの結果をもとに、今後も、学校と家庭、そして地域とが一体となって、児童のよりよい育ちを支援していくために、最大限の努力をしていく所存です。

お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

校長 坪井 秀樹



かがやく東の子

考える子

頑張る子

優しい子

工夫する子

□A:よくあてはまる ■B:だいたいあてはまる ■C:あまりあてはまらない □D:あてはまらない

項目の%はABの合計値

